

林徳寺だより 第二十七号
無量壽

平成 26 年 8 月 1 日
浄土真宗 本願寺派
林徳寺 発行
025 - 276 - 3456

林徳寺 住職後継者
得度・結婚披露 特集

平成 26 年 5 月 31 日 (土) 林徳寺本堂にて、
林徳寺の長男で住職後継者である、眞谷誠淳またにせいじゆん
と、奈良県橿原市の大堀家次女、大堀友希ゆきさん
の結婚式を執り行ないました。



花嫁到着



控え室にて



ケーキ入刀



結婚式での新郎・新婦

寺院への披露宴を、ホテルイタリア軒にて執り行ないました。
ここには林徳寺住職の両親も出席する事ができ、大変有り難いことでした。
前任職がまだ動ける内に住職後継者の結婚式をする事ができた事は、長男の手柄であったと言えます。

平成26年6月1日(日)には、林徳寺門徒への披露宴を、ホテルイタリア軒3階のサンマルコを会場に執り行ないました。

二〇〇名を超える出席者で、賑やかな披露宴となりました。

林徳寺門徒総代 岡田秀夫さんの挨拶、江南区西野在住のお世話方 高橋敏行さんの乾杯と続き、古町芸妓による踊りが花を添えてくれ



お出迎え

ました。

その後は懇親の場となりましたが、ご参加くださった皆様全員に、新郎・新婦がご挨拶に伺うことができませんので、テーブル毎に集合写真を撮らせていただきました。

その写真をこの「無量寿」紙上に掲載し、皆様にご覧いただけます。

本来であればご参加くださった方々それぞれにお写真を差し上げるべきところですが、このような形に致しますことをお許しください。



古町芸妓



集合写真 No. 1



門徒総代挨拶



乾杯



集合写真 No. 2



集合写真 No. 3



集合写真 No. 4



新婦のお母様



集合写真 No. 5



集合写真 No. 6



新婦のお姉様



集合写真 No. 7



集合写真 No. 8



集合写真 No. 9



集合写真 No. 10



集合写真 No. 11



新郎・新婦とその一族



左から
乾杯の高橋さん
万歳の星山さん
総代の岡田さん
星山さんの奥さん

紙面への掲載という形ですので、あまりはつきりとした画像にならないことは、大変申し訳なく思います。

また、集合写真を撮影するタイミングで、ちょうど席を外しておられた方もおられたようです。その場合は、申し訳ありませんが今回の紙面にはその方の写真が掲載されておりません。ご了承ください。

楽しい二時間弱の懇親の場を持たせていただいた後に、壇上にて住職と新郎が挨拶をさせていただきました。

新郎である長男の挨拶があまりに立派で、父親である住職がかすんでしまいました。

「住職の挨拶は八〇点だけれど、新郎の挨拶は一二〇点だった!」といった講評を多くの御門徒からいただき、嬉しいような、少し寂しいような感想を持った住職でありました。

いずれにしろ親子共々、今後ともなお一層の精進に努めて参りたいと思っております。林徳寺門信徒の皆様、ますますのご支援をお願いいたします。

最後に江口在住のお世話方、星山松雄さんの音頭で万歳を三唱し、お開きとなりました。



新郎挨拶



万歳三唱



お見送り



なお今回引き出物として差し上げたもので、僧侶が用いる輪袈裟のようなものがあります。これは、「門徒式章」というもので、浄土真宗本願寺派の門信徒が、仏前における礼装として首から下げて着用する法具です。昭和25年の本願寺の規定によって制定されていらい、用いられています。

今回のものは、親鸞聖人七五〇回大遠忌を記念して本願寺が制定した門徒式章で、裏側（左の写真に写っている、「下がり藤」紋がついている側が表です）に、本願寺の印が押してあります。

その朱肉がほかにつかないよう、紙がつけられています。乾いていけばとっていただいてもかまいません。

林徳寺の行事に参拝される際や、各ご家庭での年忌法要に参列される際などに、首にかけて用いてください。



門徒式章

なお、首にかけた際に真後ろから見える部分にも、「下がり藤」紋がついています。首にかける際は、これが「下がり藤」になるように注意してください。

門徒式章を左右逆にかけてしまいますと、真後ろから見た際に「上り藤」になってしまいます。

また、お見送りの際に新郎・新婦がお渡ししたものは、腕輪念珠です。

今回は様々な色合いのものを準備して、ランダムに配らせていただきましたので、必ずしも



下がり藤紋

ご本人にふさわしい色合いのものが渡らなかつた事も考えられますが、どうぞご了承ください。

腕輪念珠は一般の念珠のミニチュアですが、常に私たちを見守りつづけていてくださる仏様と、ともにある生活を送るといふことから、寝るときやお風呂に入るとき以外は腕につけたままで生活していただいてもかまいません。

常に腕につけていますと、お寺や知り合いのお仏壇にお参りする機会が急にきて、念珠を持つていないといったときに、便利です。

腕輪念珠は伸び縮みしますから、腕からはずして伸ばした状態で両手につけて、お参りをすることができます。

今後新郎・新婦は、来年春まで京都での勉強生活を続ける予定です。

その後新潟に帰り、林徳寺のために、夫婦で働いてくれることとなります。

夫婦ともに僧侶の資格は取得していただきますので、来年春以降は、皆様のお宅にお参りに伺うことがあるかと思えます。

どうぞかわいがってやっていただきますようお願い申し上げます。

合掌